

第 70 回 「荒川をよくする会 Koto」

●開催日

平成 24 年 7 月 6 日 (金)
午後 18 時から午後 20 時

●開催場所

江東区防災センター 3 階 土木部会議室

●出席者

5 名 (全構成員 : 11 名)

●議題

- 1 開会
- 2 行政委員、事務局異動に伴う自己紹介 (資料 1)
- 3 第 69 回荒川市民会議議事録の最終確認について (資料 2)
- 4 報告事項
 - (1) 荒川クリーンエイドへのお誘い
 - (2) 新砂干潟について (資料 3)
- 5 情報提供
 - (1) 第 34 回荒川の将来を考える協議会の報告 (資料 4)
 - (2) 緊急時の情報収集について (資料 5)
 - (3) 東京低地河川における船着場の利用促進について (資料 6)
- 6 その他



2 行政委員、事務局異動に伴う自己紹介 (資料 1)

異動に伴う委員の変更

荒下)波多野所長

江東区)水辺と緑の課長 高垣課長、仁平係長

3 第 69 回荒川市民会議議事録の最終確認について (資料 2)

意見特になし。承認。

4. 報告事項

1) 荒川クリーンエイドへのお誘い

江東区) 資料に沿って荒川クリーンエイドの紹介

HP等で参加者の増加に努めたい。委員の方にもお声がけをお願いしたい。

2) 新砂干潟について

荒下) 資料3説明

- ・ヨシ原が減っていつている中、合意形成を見ながら、こちらを優先的に実施したということで、試験的ということ。
- ・地形の変化について、H 21に同じ図を出したが、線が足りなくて分かりづらかった。2006年のときに土を盛ったのはこの線ではなくて、水際の岸側に大きく土盛りをしている。その土盛りをしたものが、除々にこういった線形になっていったというのが実体です。今の所大旨落ち着いているということ。現状大きな地形の変化はありません。
- ・昨年の台風で水際の土のところが流されておりますが、干潟の形状としてはそんなに大きくは変わっていない。
- ・植生の変化はどうか、2008年、2010年と経て、カラフルになってきています。イセウキヤガラ、ヨシの発達が顕著。2011年の台風で大きく植生が崩れてしまった。
- ・モニタリング調査の関係で昨年の秋までしか載せていませんが、現状では植生は少しずつ回復しております。

・底質の調査も何回も行っており、粒径組成のシルト・粘土分は2006年以来、あまり変わっていない。また、砂分、干潟の成分ということですが、これもあまり変わっていない。

・底質の化学組成、色んな調査を行っている。これは、健全な干潟かどうかを化学的にチェックしているということ。まとめて言いますと、この所あまり変化はないということ。強熱減量とありますが、これは底質に含まれている、主に有機物の質量を表しています。表の通り、今の所ヤマトシジミの生息を犯してはならず、あまり変化はない。

酸化還元電位とは何かと言いますと、表の0から上だと酸素に触れている、0から下だと酸素に触れていない、-200より下のラインに行ってしまうと、嫌気性になりすぎて、あまりよくない。ただ、この位ならまだ大丈夫。

AVS、全窒素、全リン、CODもそうですが、この辺は富栄養化かどうかを見る指標と思ってください。AVSはちょっと措いとして、それ以外のものは今のところ大丈夫かと、あまり変わっていないかと思えます。ただ、CODが2010年、2011年と少し高いので、これ以降あまり上がるようであれば、ちょっと問題ではあるが。

- ・生物状況の変化、昨年の台風で減っている。
- ・植物の変化(種数)で見ると、2006年から2008年までは順調に増えていたが、それ以降減っている。代わりにアレチウリが増えた。底生動物の種数も増えていつている。
- ・基本的にはこうしたモニタリング調査は、2006年から2008年の3ヶ年で終わっている。今後の状況ですが、自然地の維持管理が問題になっている中で、去年は自然地管理の運営検討会を開き、足立・墨田の2地区で話し合い、行政が少なからず関わっていくことを確認し、足立区では広く広報し、市民活動をされている方を集めていこうという話がされました。

これをモデル地区として、先行事例として、その後こちらの新砂地区にも波及させていきたい。

委員) 小松川と新砂、下平井地区とあるが、そのうち、下平井は江戸川区、小松川は江東区・・・?

荒下) 違います。江戸川区で、ロックゲートより上流に、広く干潟がありヨシ原があります。

委員) そうすると今、2地区と言ったのは・・・

荒下) 間違えました。3地区です。

委員) 下平井はどの辺ですか?

荒下) 総武本線の下、道路で言うと平井大橋の右岸側です。目抜通りを通っているとよく見えないのですが、水際にあります。

(※地図を見せながら、場所を説明。他の地区の状況も併せて説明。)

委員) CODがここ2年で倍になっているが。また、トビハゼも捕れていないようだ。モニタリングも工事後3年ということですが、我々も行うが、ここまで専門的な結果は出せるかといえば難しいので、続けていくことが重要。可能な限り、人工のものなので、手を加えていただきたい。

委員) 干潟は全国で色々なケースがあると思うが、荒川特有のものってありますか? 多摩川辺りと比べてどうか?

荒下) 他の川との比較は特にやってはいません。そもそも多摩川と荒川は川のつくりが全く違っていて、荒川はゆるやかだが、多摩川は山から一気に下ってきて、下流部のある程度の所まで砂利河川になっている。

江東区の干潟はカニもいる「楽しい」干潟だが、もう少し上流は、泥干潟で、あまり人気がない。

議長) 河川によっても、地区によっても考えが違うようだ。小松川や葛西は砂も多く立派で、シジミをとる漁船が20隻以上あり、産業になっている。悲観することはない。

委員) 何年に一度かの台風もあるが、増えた減ったで、一喜一憂することはない。

委員) 流されたら流されたで、どう変わるか見ていけばいい。

議長) 内部河川で、手を加えないようにしているが、ああいふ場所を、ちゃんと整備しないと開放しないということだけでなく、環境学習に使えばよい、そういう管理の仕方もあると思う。

クリーンエイドについても、りそな銀行さんは力を入れていて、700人位集まり、ゴミも多くとれる。広報のやり方にも工夫が必要と思う。

5. 情報提供

1) 第34回荒川の将来を考える協議会の報告

荒下) 資料4説明

⑤まちづくり検討会について: スーパー堤防について住民を守るために必要な区域について確認した。

⑥集大成である「荒川放水路変遷誌」について説明。

委員) ④について、行政側の理屈ではないか。警察・消防・自衛隊の錯綜回避ということだけでなく、そこに、市民の安全のための仕組ということは議論されないのか?

荒下) 各市区ではそれをふまえて防災計画を立てていただくことになります。

④の件は、情報共有のための組織づくりをしましょうという、運用上の協議です。

委員) 先程のスーパー堤防の、住民の安全を守るための区域というのは、具体的な場所は決まっているのか?

荒下) 本省のホームページに場所が出ています。

2) 緊急時の情報収集について

荒下) 資料5説明

委員) これが重要なことは分かりました。ただ、例えば荒川のこの土手の上なら確実につながるといような、ネットワーク環境として、江東区は天端環境が低い。荒川区がとり入れたようなUQワイマックスのような環境を作ることは非常に有効ではないか。

荒下) 今の意見は知らなかったなので、持ち帰って情報提供します。

3) 東京低地河川における船着場の利用促進に向けて

荒下) 資料 6 説明

委員) 大分、雰囲気が変わりましたね。

荒下) 管理側に立つと、どうしても規制でがんじがらめにしてしまわざるを得ないのですが、今回は自己責任を前提に新たな検討の場を作っています。

委員) スカイツリー効果が予想以上に大きい。そこから吾妻橋、江東内部河川につながるところで何か出来れば面白い。

議長) 内部河川でもっと遊べるような環境になって欲しい。

※その後、江東区内部河川内での水上バス、カヌーなど、水との触れ合いをより一層図るべきとの話題となる。

6. その他